

谷口藍田 然翁 儒者。文政五年八月十五日肥前國有田生れ、明治二十五年十一月十四日歿（八三—九〇）。諱中秋、字大明、幼名秋之助、通稱良藏、山口龍藏。別號介石、藍田山人、韓中秋、韓藍田、韓介石等。夙に清水龍門の塾び、神童の稱があつた。廣瀬淡窓の師事して都講となり、江戸に赴き初倉簡堂に修學。また佐藤一齋、古賀洞庵、佐久間象山の知遇を受け、蘭學者とも往來して内外の事情を識つた。弘化四年藩醫弘道館に教授、維新時は長崎に教へ、一方副島種臣、大隈重信等と謀つて國事を關心する。のち廣島藩弘文館に教授、晩年は東京に私塾藍田書院を開き、行道舎を設けて皇道の扶植に當つた。

藍田遺稿

（明治二十六年六月一日谷口豊五郎編輯）がある。